

学生ランチの活動紹介

四国支部

1. はじめに

皆さん、こんにちは。私は、電子情報通信学会四国支部の学生会顧問を務めている西川まどかです。このたびは、私の所属する愛媛大学の学生ランチの活動を紹介する機会を頂きました。

愛媛大学の学生ランチは2006年に設立され、今年で15年目を迎えます。現在、通信システム工学講座に所属する光工学分野、通信システム工学分野、情報ストレージ分野の研究室の学生を中心に活動しています。

特に、2020年度においては新型コロナウイルスの影響で例年と同じような活動ができないところもありました。しかし、関係の皆様にお力添えを頂きながら、このような状況でも活動の歩みを止めることなく今日に至っております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本稿では、過去3年間の愛媛大学の学生ランチの活動を御紹介致します。

2. 交流会

例年、年度始めに、学内の食堂にて交流会を開催しています。この交流会は、研究室に配属されたばかりの学部生にとっては初めての学生ランチの活動となりますので、「ウェルカムパーティー」とも呼んでいます。交流会を通して、学部生が大学院生から卒業研究を進めていく上でのいろはを学ぶことのできる良い機会となっています。また、学生ランチの年間の活動計画について



図1 交流会の様子(2019年4月撮影)

も話し合います。図1は2019年度に開催した交流会の様子です。食事をしながら皆さん和やかに談笑しています。

しかし、2020年度は新型コロナウイルスの影響で、学生は学内に立ち入ることができなかったため、残念ながら交流会は中止となりました。

2021年度も会食を伴う交流会は難しいため、オンラインでの開催を検討しています。今後も学生同士の交流を深めていけたらと考えております。

3. 企業訪問

企業訪問は、夏季休業中に実施しています。企業訪問では、将来の進路選択の一助として、実際の現場を知る大変貴重な機会となっています。また、マイクロバスを貸し切ったの日帰りツアーということもあり、例年、多くの学生が楽しみにしています。

＜過去3年間の訪問先と所在地＞

【2020年度】

- ・ 中央浄化センター（松山市）
- ・ 南クリーンセンター（松山市）

【2019年度】

- ・ PHC アソシエイツ株式会社（東温市）
- ・ (株)ヒカリ（東温市）

【2018年度】

- ・ 南海放送株式会社（松山市）
- ・ サンタ株式会社（松前町）

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、年度始めには実施不可能かと思われました。しかし、私たちと企業の双方が新型コロナウイルス感染対策をしっかりと講じることを条件に企業訪問を実施することができました。なお、訪問にあたっては、日頃のマスク着用、健康観察や不要不急の外出自粛に加え、以下のような対策を講じました。

- ・ 訪問する人数を例年の約半数にする。
- ・ 訪問者リストを受入れ企業に提出する。
- ・ 訪問時間を1時間程度に短縮する。

- ・ 昼休憩は大学に戻って各自で食事をする。
- ・ ビニル手袋を持参する。

また、訪問先では「密」を避けるために様々な配慮をして頂きました。例えば、紹介ビデオの視聴においては、参加人数14名に対して、収容人数が80名以上の部屋を用意して頂きました。図2は中央浄化センターを見学している様子です。このように、見学場所を主に屋外にして頂きました。また、南クリーンセンターでは、狭い作業場には立ち入らずに廊下から見学させて頂きました。

例年訪問先では、施設の見学に加えて、ディスカッションの時間を設けて頂いています。図3は、2019年度に訪問したPHCアソシエーツ株式会社にて、昼食を頂きながらディスカッションをしている様子です。その場では、見学をしての質疑応答はもちろんのこと、働くことへのやりがいや福利厚生について現場の方の生の声を聞くことができました。特に、従業員の中に愛媛大学の卒業生の方がいらしたときには、学生時代の思い出話に花を咲かせました。私たちも現場で活躍されている先輩方の姿を拝見することで、とても励みになりました。

2021年度も企業訪問の実施が難しい状況が続いてい



図2 中央浄化センターでの見学の様子（2020年9月撮影）



図3 PHCアソシエーツ株式会社でのディスカッションの様子（2019年9月撮影）

ます。最近では、オンラインでの見学を企画されている企業もあります。今後も可能な範囲で企業訪問を実施できたらと思っています。

4. 講演会

例年12月に、講演会を開催しています。講演会では、通信システム工学の第一線で活躍されているスペシャリストから最新の研究動向や企業の取り組みを知ることのできる絶好の機会であると考えております。図4は、2018年度の講演会の様子です。

<過去3年間の講演題目と講師>

【2020年度】

題目：「NTT西日本グループにおける災害対策の取り組みについて」

講師：青木 崇氏（(株)NTTフィールドテクノ）

【2019年度】

題目：「なぜ磁気記録再生シミュレーションにLLGが必要なのか」

講師：田河育也氏（東北工業大学）

【2018年度】

題目：マイクロ波アシスト磁気記録の原理とLLGシミュレーション」

講師：田河育也氏（東北工業大学）

なお、2020年度の講演会はオンラインでの開催としました。講師の青木氏から、人工知能を活用して被害状況を予測し、災害時の迅速な復旧と被害の最小化を目指す、「プロアクティブ」な取り組みについて具体的な事例を交えて御講演頂きました。

2021年度もオンラインでの開催を企画し、通信システム工学分野の知見を深めたいと思っています。



図4 講演会の様子（2018年12月撮影）

5. お わ り に

以上、愛媛大学の学生ランチ活動として、交流会、企業訪問、講演会について御紹介致しました。

私の所属する通信システム工学研究室では、人手不足が深刻化する小規模稲作農家を対象に、ロボット間通信技術や画像処理技術を用いた自律形稲作用除草ロボットの開発を行っています。その中で、私は雑草・稲・あぜ道を判別する、自律制御に用いる機械学習を用いた画像認識プログラムの開発に取り組んでいます。通信システム工学研究室は学生の自主性を重視していて、提案すれば割と自由な研究テーマに取り組めるところが良い点だと思います。

私は2020年に南クリーンセンターの見学会に参加しました。施設内に小さな発電設備を備えており、電気電子の専攻で活躍されている方から貴重なお話をお聞きすることができました。社会インフラの一部であるため、

私は、情報ストレージ研究室に所属し、ハードディスク装置の記録容量の増大のために近年注目されている、マイクロ波アシスト磁気記録を用いて多層化された記録媒体へ記録を行う方法についての研究を行っています。大学院に入学してまもなくコロナ禍となり、リモート中心での授業や研究活動が始まって以来、現在もリモートでの諸活動が続き、新たな生活スタイルとして定着しています。

学生ランチの活動において特に印象的であったのは、2019年12月に行われた、東北工業大学の田河先生による「なぜ磁気記録再生シミュレーションにLLGが必要なのか」の講演です。私の研究分野であるハードディスク装置について、その機構や原理などを説明頂

私は、情報ストレージ研究室に所属し、超高密度化ハードディスク装置のための信号処理方式の開発として人工知能の一種であるニューラルネットワークの導入についての研究に従事しています。愛媛大学に着任して5年目になりますが、それまでの13年間は高等学校の教諭をしていました。若い学生たちに気持ちだけは負けないう、教育活動や研究活動に奮闘しています。

御縁がありまして、電子情報通信学会四国支部の学生会顧問に就任し、今年で2年目になります。就任早々、新型コロナウイルスの影響で十分な活動ができるかどうか不安でしたが、地元企業の方の御理解・御協力を賜りまして、企業訪問や講演会を実施することができまし

最後になりましたが、学生役員と私、顧問からのメッセージを添えて学生ランチの活動紹介を締めくくりたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

コロナ禍においても活動を滞りなく継続させるために細心の注意を払っており、当見学会は施設職員及び関係者の皆様の努力により成立したものであると実感しました。

コロナ禍で研究活動に制限がかかり、企業や学校で思ったように活動できないこともある中で、オンライン講演会など様々なツールを活用して、多くの取組みが活発に行われるようになることを願っています。



(愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻 博士前期課程2回生 川田悠貴)

き、更にはMAMRの磁気記録シミュレーションの様子を見ることができたのが非常に興味深く、特に印象に残っています。

今後リモート中心の生活が続くことが予想され、2021年度の学生ランチの講演もオンライン開催されると思いますが、通信システム工学分野の知見をより深めたいと考えています。



(愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻 博士前期課程2回生 高松慧介)

た。また、活動全般においては、四国支部の幹事の皆様並びに、歴代の学生会顧問の先生方からの御助言を賜っており、大変感謝しております。

当面の間は新型コロナウイルスとの闘いの中で活動を継続しなければなりません、学生ランチがより一層充実したものとなりますよう務めてまいります。今後とも御指導のほどよろしくお願い致します。



(愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻 学生会顧問 西川まどか)